

大学入試の基礎知識 vol.25 【就職率&進路決定率】2024.10.1

入試の難易度を気にしない受験生は、まずいないでしょう。しかし卒業後の進路はどうでしょうか？入学もしていないのに先のことを考える余裕はないかもしれませんが、卒業した学生がどのような進路を取ったのか、といった数値を取り上げてみたいと思います。

就職率

$$\textcircled{1} \text{ 就職者数} \div \text{就職希望者数} \times 100$$

$$\textcircled{2} \text{ 就職者数} \div (\text{卒業生総数} - \text{進学者数}) \times 100$$

就職率を上げるためには就職した人数を上げる方法と、対象者を少なくする方法があります。①と②の計算式の違いは、対象者をどう捉えるのかの違いです。①は希望したかどうかは本人にしか分からないといったところに課題があります。就職活動はしたが内定がもらえなかったので、公務員試験や資格試験にチャレンジするために留年したとった場合、就職希望者に入れることも外すこともできます。しかし、本来であれば、分子＝就職できた人の数を増やすことで就職率を改善すべきです。

それに比べて②は、進学した人以外の全員が分母に来るので、より厳密なデータのとり方と言えますね。

進路決定率

$$(\text{就職者数} + \text{進学者数}) \div \text{卒業生総数} \times 100$$

大学は言うまでもなく就職するための機関ではありません。研究を重視していて進学希望者が多い大学や学部もあります。そういった大学・学部は就職率が低くなってしまいます。だからといって大学や学生のチカラや努力が劣っているわけではありません。進学と就職の合計、つまり進路が決定した学生の割合が分かる数値であり、逆に見ると進学も就職もしていない人の割合を見る基準にもなります。

ふたつの数値を見比べる

就職率 90%台で「この大学に入ったら、ほとんど就職できるんやな！」って思っていたら実は違ったということも起こり得ます。進路決定率を見ると 50%だったという場合です。その場合、公務員などの資格試験の勉強をするために浪人していたり、就職が決まらず浪人していたり、その他進路が決まっていな人が 4 割以上もいるということになります。さらに言うと、いずれの数値も留年した人が分母に入っていない。

就職と進学以外の道って？

文部科学省のデータでは、自営業者や雇用予定期間が 1 か月未満の臨時労働者も「就職者等」に含まれています。医学部などの臨床研修医は「進学者」に含まれます。

進学と就職以外は専修学校、進学準備中、就職準備中、その他不詳

